

ホクコーリードゾン®粒剤

■種類名：ピラゾレート・プロモブチド・メフェナセット粒剤	
■有効成分：ピラゾレート	4.0%
プロモブチド	4.0%
メフェナセット	3.5%
■PRTR法指定物質：ピラゾレート [第1種]	4.0%
メフェナセット [第1種]	3.5%

■登録番号：第16618号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：1986.10.28
■性状：類白色細粒
■有効年限：3年
■包装：3kg×8袋

【特長】

- 広範囲の雑草に優れた効果を示し、広い処理適期幅を持つ一発処理除草剤。
- SU抵抗性のホタルイ、コナギ、アゼナ類にも有効。
- 10アールあたりの散布量は3kg。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ (北海道、東北、北陸) ミズガヤツリ ヒルムシロ クログワイ (北陸、関東・東山・東海、近畿・中国・四国)	移植後5日 ～ノビエ2葉期 但し、移植後30日まで	壤土 ～植土	3kg /10a	1回	湛水 散布	北海道
		移植後5日 ～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで					東北以南(関東・東山・東海及び九州、南四国を除く)の普通期及び早期栽培地帯
		移植後5日 ～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	砂壤土 ～植土				関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯
							九州、南四国などの暖地の普通期及び早期栽培地帯

ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	メフェナセットを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は発生前から生育初期の雑草に効果があるので時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワでは2葉期まで、ヒルムシロでは発生期まで、クログワイは発生始期までが本剤の散布適期である。
クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないのので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 散布の際は、湛水状態(湛水深3～5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布すること。また、極端な浅水や深水での使用はさけること。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また入水は静かに行うこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業及び植付けはていねいに行うこと。また、極端な浅植え、浮き苗の多い水田では使用しないこと。
- 下記のような条件では初期生育の抑制やククロシスが生ずるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時または散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので使用しないこと。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(1日の減水深が2cm以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
- 北海道の泥炭質土壌の水田で使用する場合、ウリカワには効果が劣ることがあるので、ウリカワ多発田では使用しないこと。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合または、異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。

- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は河川、養殖池等に流入しないよう、水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。